



PATEK PHILIPPE
GENEVE

《報道資料》 ページ 1

パテック フィリップ ジュネーブ

2021年4月

パテック フィリップは、曜日、日付、月を並べて表示する、革新的な特許取得のインライン表示を備えた、まったく新しい永久カレンダー、インライン表示永久カレンダー 5236P-001 モデルを発表する

マニュファクチュール パテック フィリップは、曜日、日付、月を12時位置の大型表示窓に並べて表示する永久カレンダー 5236P-001モデルを発表し、カレンダー・ウォッチの豊かな現行コレクションをさらに充実させた。この独自性溢れる機能に最高の視認性と信頼性を組み合わせるため、当社技術陣は、3件の技術特許を出願中のまったく新しい自動巻ムーブメントを開発した。この新しいインライン表示永久カレンダーは、ブルーの文字盤を備えたエレガントなプラチナ仕様で発表される。

クラシックなグランド・コンプリケーションの代表として、永久カレンダーは常にパテック フィリップのコレクションの中で特別な地位を与えられてきた。パテック フィリップは1925年、このきわめて高度なコンプリケーション機能を搭載した最初の腕時計を発表した（ムーブメントNo. 97 975）。このタイムピースは今日、ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアムに展示されている（Inv. P-72）。パテック フィリップの永久カレンダーは、指針表示または窓表示のさまざまな文字盤構成により、多彩なデザインを生み出してきた。著名な超薄型自動巻ムーブメント、キャリバー 240 Qを搭載した5327などのモデルは、3つの別々のサブダイヤルにより、曜日、日付、月を表示する。5320モデルなどに搭載された自動巻ムーブメント、キャリバー 324 S Qは、マニュファクチュール パテック フィリップの永久カレンダーにおける今ひとつの伝統的なデザインを示している。これは、12時位置に曜日と月を並べて窓表示し、6時位置に指針による日付表示とムーンフェイズ表示を配している。5160モデルなどに搭載されたキャリバー 324 S QRには、さらなるコンプリケーション機能が追加されており、レトログランド日付表示針が8時～4時位置の弧状目盛に日付を指針表示する。曜日は9時位置、月は3時位置、閏年サイクルは12時位置、ムーンフェイズは6時位置の表示窓にそれぞれ表示される。

パテック フィリップにふさわしいグランド・コンプリケーションの新しい顔

パテック フィリップは、5236P-001モデルの発表により永久カレンダーに新しい顔を与えた。新しい5236P-001モデルは、12時位置の細長い大型表示窓に曜日、日付、月を表示する革新的な機構を備えている。このようなパノラマ式の表示窓は、パテック フィリップのコレクションにおいてまったく前例がないわけではない。過去においてマニュファクチュール パテック フィリップは、アメリカ市場向けにインライン表示カレンダー搭載の懐中時計をすでに製作していた。新大陸の顧客たちは、操作が容易で表示を一目で読み取れる高度な永久カレンダーに熱狂した。このようなタイムピースの一例がパテック フィリップ・ミュージアムに展示されている。アメリカ風に月、日付、曜日の順で並んだ永久カレンダー表示窓を備えた1972年製作の懐中時計（Inv. P-1450）である。しかしマニュファクチュール パテック フィリップが、新しい5236P-001モデルのような完全なインライン表示カレンダー搭載の腕時計を創作したことは未だかつてなかった。

この超小型化の傑作を実現するため、パテック フィリップ技術陣はまったく新しい技術的課題を克服しなけ



《報道資料》 ページ 2

ればならなかった。カレンダー表示をできるだけ大型化し、最高の視認性を保証するため、2枚の日付表示ディスク（ひとつは10の位、もうひとつは1の位の数字を表示）を備えたシステムを設計する必要があった。単一の日付表示ディスクに31日分の数字を記載したのでは、数字が小さ過ぎて読みにくくなるからである。したがってカレンダー表示は、曜日、日付（2枚）、月表示用の合計4枚の回転ディスクで構成され、しかも4枚すべてが完璧に同一平面上に配置されなければならなかった。パテック フィリップ・シール認定規準に定められたマニュアルファクチュール パテック フィリップの基本原則に鑑み、新しい機械式ムーブメントは、長期にわたる最高の信頼性を犠牲にすることなく、可能な限り最小の直径と厚さを達成しなければならなかった。このためプロジェクト・チームは、2011年、レギュレーター・タイプの年次カレンダー 5235モデルのために創作されたキャリバー 31-260 REG QAをベースとして開発を進めた。このキャリバーは偏心マイクロローターと6時位置のスマールセコンドを備えていたばかりでなく、きわめて薄型のムーブメントであった。

パフォーマンスを最適化した新しい自動巻ムーブメント

キャリバー 31-260 PS QL（PSはスマールセコンド、QLはインライン表示永久カレンダーのフランス語による略称）は、ベースとなるキャリバー 31-260の直径と厚さ（31.74 x 2.60 mm、キャリバー名はこれに由来）を保持しつつ、パテック フィリップにおける最新の技術的成果を統合した、まったく新たなムーブメントとなっている。エネルギーをとりわけ多く消費する永久カレンダー機構を駆動するため、ムーブメントには《チューンアップ》が施された。ぜんまいのトルクが20%増加し、巻き上げのパワーは、パテック フィリップのマイクロローターに通常使用される22金ゴールドよりもさらに比重の大きいプラチナ製のマイクロローターにより強化された。またテンプレ振動数を3.2から4Hz（28,800片道振動/時）に増やすことでレートの安定性が向上し、パテック フィリップ・シールに準拠した日差許容値を実現するための精度調整も容易となった。さらにキャリバー 31-260 PS QLには、ぜんまいを手で巻き上げる際、摩擦を減らす目的で自動巻き上げ機構を切り離す減速歯車が装備されている。この仕組みは、2019年にパテック フィリップが特許を取得したものである。ムーブメントの造形美は、脱進機と4番車用にそれぞれ独立した受け（ブリッジ）を設けたことで微細な進化を見せている。この変更は技術陣にさらなる課題を与えたが、その結果、サファイヤクリスタル・バックを通して時回り輪列（ケースバック側の歯車の列）の全体的なアーキテクチャーと洗練された仕上げをよりよく鑑賞することができることになった。サファイヤクリスタル・バックは、同梱されたプラチナのソリッド・ケースバックに交換することができる。

3件の技術特許で保護された革新的な表示機構

永久カレンダー機構（12か月カムと2月末日を制御する衛星カムを含む）は、独自のプレートを備えた別個のモジュールとして設計された。この設計により、機構を部分的に統合した場合よりもキャリバーの総厚を小さくすることができた。カレンダー機構と基本キャリバーの連結は、筒カナ（分針が付いたカナ歯車）と噛み合った追加歯車により行われる。この追加歯車の軸受けは2つの穴石（ルビー）を用いており、やはり2つの穴石を持つ24時間車と噛み合う。これによりエネルギー効率の最適化が計られている。

しかし最も革新的な点は、最高の視認性、最小限のエネルギー消費、および完璧な信頼性を保証する、4枚の回転ディスクを備えたカレンダーのインライン表示であろう。この機構のみで、従来の永久カレンダー表示に比



べて118個の追加部品が必要であった。これらには、数枚の受け（ブリッジ）と、2枚の日付表示ディスク車など、エネルギー消費を軽減するため軸受けに穴石（ルビー）を用いた歯車が含まれる。すべての表示が重なり合わず同一平面上に見えるために、技術陣は2つの《同一平面上のダブル・ボールベアリング》(特許出願中)で構成される表示システムを開発した。日付表示の信頼性と2枚のディスク間の完璧な同期は、1の位の日付表示ディスクの《ダブル・ジャンプ防止》機構（第2の特許）で実現されている。これは衝撃や日付変更の際に日付が飛ぶのを防止する。31日から翌月の1日への移行時には、31歯から2歯が切除された日付プログラム車などにより、1の位の数字が変化しない（第3の特許）。

カレンダー表示の日送りは漸次日送り式である。曜日、日付、月のインライン表示に加え、2つの小さな丸型表示窓がある。ひとつは4時位置に閏年サイクル、もうひとつは8時位置に昼夜を表示する。この2つはカレンダー調整の際、きわめて有用である。パテック フィリップの永久カレンダーの重要な要素であるムーンフェイズは、6時位置のスマールセコンド・サブダイヤル内に表示され、きわめて高精度である。カレンダー調整を容易にするために、3つの調整ボタン（曜日、日付、月）が9時～2時位置のケース側面に、各々の表示と同じ順序で配置されている。ムーンフェイズ調整ボタンは8時位置に配置されている。

時を超越した造形美

プラチナ仕様の新しい5236P-001モデルの外装は、レギュレーター・タイプの年次カレンダー5235モデルからインスピレーションを得ている。直径41.3 mmのシンプルなケースは、ベベルカットされたベゼルを備えている。このピュアなアーキテクチャーは、由緒あるパテック フィリップの伝統に従って完全に手作業で施されたポリッシュ仕上げにより、さらに洗練されたものとなっている。わずかに角度をつけたラグがベベルカットされたベゼルのラインを延長し、快適な装着感を実現している。パテック フィリップのプラチナ・モデルの大多数と同様に、ケース側面の6時位置に小さなダイヤモンドがセッティングされている。外周に向かって濃くなるブラック・グラデーションのブルー文字盤が、プラチナの銀色のきらめきと絶妙なコントラストを生み出し、縦サテン仕上げがさらなる輝きを与えている。時刻はホワイトゴールド植字インデックスとバトン型時・分針により表示される。シュマン・ド・フェール（ルール）型分スケールのテクニカルなアクセントは、6時位置のスマールセコンド・スケールにも反映されている。曜日、日付、月表示は、白地に青ではっきりと読みやすく印刷されている。ネイビーブルーのアリゲーター・バンドとプラチナ製折り畳み式バックルが、永久カレンダー5236P-001モデルの卓越した個性に完璧な仕上げを加えている。この新しいグランド・コンプリケーションが、パテック フィリップのカレンダー時計の長く輝かしい歴史において、確固たる地位を約束されていることは疑いを容れない。





技術特許

パテック フィリップは、5236P-001 モデルのために開発されたインライン表示永久カレンダー機構に関し、3 件の技術特許出願を行った。

- 表示機構（ボールベアリング表示）（欧州特許出願 EP19194522.9、2019年8月30日）
2つの《同一平面上のダブル・ボールベアリング》を備えたこの表示システムにより、インライン表示永久カレンダーのすべての表示が重なり合わず、同一平面上に見える。
- 時計ムーブメントの衝撃防止、ダブル・ジャンプ防止機構（欧州特許出願 EP19194519.5、2019年8月30日）
この機構は、衝撃や日付変更の際に日付が飛ぶのを防止することにより、日付表示の信頼性を強化し、2枚のディスク間の完璧な同期を実現する。
- 日付表示：31日から翌月の1日への移行時（欧州特許出願 EP19194523.7、2019年8月30日）
この機構は、31日から翌月の1日への移行時に、31 歯から2歯が切除された日付プログラム車などにより、1の位の数字が変化しない。





技術仕様

インライン表示永久カレンダー 5236P-001 モデル

ムーブメント：	キャリバー 31-260 PS QL 機械式自動巻ムーブメント。曜日、日付、月を大型表示窓に並べて表示する、完全なインライン表示永久カレンダー。閏年サイクルおよび昼夜表示。ムーンフェイズ。スモールセコンド。
総径：	34 mm (基本キャリバー 31.74 mm、永久カレンダー・モジュール 34 mm)
厚さ：	5.8 mm (基本キャリバー 2.6 mm、永久カレンダー・モジュール 3.2 mm)
部品総数：	503個 (基本キャリバー 205個、永久カレンダー・モジュール 298個)
石数：	55石
連続駆動可能時間：	最小 38時間、最大 48時間
自動巻ローター：	プラチナ製マイクロローター、単方向巻き上げ式
振動数：	28,800 振動 (片道) /時 (4 Hz)
テンプ：	Gyromax®
髭ぜんまい：	Spiromax® (Silinvar® 製)
髭持ち：	可動式
表示：	指針 ・時・分針 (センター) ・スモールセコンド (6時位置) 表示窓 ・曜日、日付、月を並べて表示 (12時位置) ・昼夜表示 (8時位置) ・閏年サイクル表示 (4時位置) ・ムーンフェイズ表示 (6時位置)
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置：巻き上げ ・引き出した位置：時刻合わせ
調整ボタン：	・曜日調整ボタン (9~10時位置) ・日付調整ボタン (10時位置) ・月・閏年サイクル調整ボタン (2時位置) ・ムーンフェイズ調整ボタン (8~9時位置) 18 金ホワイトゴールドの象嵌を施した黒檀のファンクション・ペンシルが付属
刻印：	パテック フィリップ・シール



外 装

- ケース： プラチナ950仕様
サファイヤクリスタル・バックと通常のケースバックが共に付属
3気圧防水
6時位置のラグ間にダイヤモンド
- ケース寸法： 直径：41.3 mm
長さ：48.61 mm (ラグを含む)
幅：44.35 mm (9～3時位置、リュウズを含む)
厚さ：11.5 mm (サファイヤクリスタル・ガラス～ラグ)
厚さ：11.07 mm (サファイヤクリスタル・ガラス～ケース・バック)
ラグ間隔：20 mm
- 文字盤： ・真鍮、外周に向かって濃くなるブラック・グラデーションのブルー塗装文字盤、
縦サテン仕上げ
・18金ホワイトゴールドの2ファセット・バトン型植字インデックス
・18金ホワイトゴールドの2ファセット・バトン型時・分針
・18金ホワイトゴールドのカウンターウェイト付《シュヴー》型秒針
・転写分スケールとスモールセコンド・スケール
- バンド： ・ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド、カラーはブリリアント・
ネイビーブルー、プラチナ950折り畳み式バックル付





歴史資料

永久カレンダーを搭載した最初の腕時計（1925年）

永久カレンダーを搭載した知られる限り最初の腕時計は、ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアムに展示されているユニークピース、パテック フィリップ No. 97 975（Inv. P-72）である。これは1898年に一部が製作された婦人用ペンダント・ウォッチのケースとムーブメントをベースとして、1925年に製作された。白七宝文字盤のカレンダー表示（12時位置に曜日表示、センターに日付指針表示、6時位置に月表示）は瞬時日送り式である。さらに3時位置にムーンフェイズおよび月齢表示を配している。ローズゴールドのケースは、1925年にイエローゴールドでめっきされた。ベゼルには黒七宝のラインが入り、ラグには彫刻が施されている。

インライン表示永久カレンダー搭載の懐中時計（1972年）

ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアム所蔵のレピーヌ型（オープンフェイス）懐中時計725/4モデル（Inv. P-1450）は、1972年にアメリカ市場向けに製作された。その特徴的な機能のひとつは、12時位置のパノラマ式表示窓によるインライン表示永久カレンダーである。月、日付、曜日の順で並んだ瞬時日送り式表示の配置は、アメリカのカレンダー形式に従っている。6時位置にムーンフェイズを配している。直線レバー式脱進機を備えたキャリバー 17-170 ムーブメントをイエローゴールド・ケースに搭載。



Inv. P-72（1925年）



Inv. P-1450（1972年）

